

# 農経新聞

株式会社 農経新聞社  
東京都品川区西五反田  
1-27-6 市原ビル9F  
(郵便番号 141-0031)  
電話 東京 (03)3491-0360  
FAX (03)3491-0526  
ホームページ  
<http://www.nokei.jp>  
郵便振替 00180-8-156982

## 食の検定 3千人が受験

丸巣石川  
中央青果

### 中心に北陸支部を設立

食と農の基礎知識を問う「食の検定」の三級試験が、このほど全国九地区で開催された。今年六月の第二回目を大きく上回る三、〇〇九人が受験。丸巣石川中央青果や広島市中央青果卸売協同組合では、団体受験に臨んだ。

主催は、有限責任中間法人・食の検定協会(内田啓祐代表理事、東京都千代田区)。現代の食に関わる環境、正しい食生活、食文化を理解することで食の選択力を養おうというもの。生活者の理解が深まれば、食品業界にとってもプラスの波及効果が期待できるというもの。三級は、農作物の栽培や栄養素、自給率、食育、産地地産を幅広く、かつ、基本に絞った内容。四択方式で全一〇〇問。八〇点以上が合格で、前回は八四・二%の合格率だった。今回からは企業、法人、学校、団体で二〇人以上集まれば、地元で受験できる団体受験システムを採用。

丸巣石川中央青果では全従業員とその他希望者などを合わせ七〇人以上が、また、広島市中央青果卸売協同組合では、仲卸の中音青果が中心となり六〇人以上がチャレンジするなど、前回に続き市場関係者の受験が目立った。

丸巣石川中央青果では、「社員教育」をきっかけとしながらも、同社事務局に、地元の農産卸や食の関連企業と「食の検定推進委員会 北陸支部」を設立した。今後は、他県の青果卸をはじめJAなどの産地、スーパー、食品メーカーなどにも受験を呼びかけていく。同支部の代表幹事を務める経営企画部・岡嶋啓介部長は「組織で食育活動ができれば」との構想を抱いている。

なお、推進委員会は鹿児島支部の発足が全国初。鹿児島青果、鹿児島中央青果も参加し、スーパー店頭でのキャンペーンなど、活動をスタートさせている。

## ●農経新聞

2007/12/3

掲載記事